昭和64年1月1日（1989）　No.248

西暦1989年

館報 大豊

昭和64年元旦

賀正

二十一世紀への飛躍元年
ごあいさつ

大豊町長　渡辺　盛男

天皇陛下の御病状も御安定のうちに昭和六十四年の新しい歳を迎えることが出来ました。陛下の一日も早い御快癒と、町民の皆様が益々御健康で充実した年でありますことを心から御祈念申し上げます。また大豊町にとりましても新しい時代に向けて一層光輝ある年でありますことを併せて御祈り致します。

昨年は「限りある森と水」をテーマに88れいほく高速博覧会が開催されましたが皆様の温かい御理解と御協力により大成功裡に終了することができました。このイベントを通じて嶺北地域住民の有機的結合、一体化の上に大きく貢献すると共に他の市町村に於ける村おこし運動の展開にもインパクトを与えたものとして内外に大きく評価されました。ひとえに議会をはじめ町民各位の御協力の賜であり改めて厚く御礼申し上げる次第であります。

また六月オープン致しました〝山荘梶ケ森〟の運営も順調に経過し、県内外の皆さんに大変好評で当初予想以上の御利用を頂いているところであります。

一方林業面では川口南への嶺北林材協同組合生産加工施設の完成、嶺北プレカット事業協同組合の設立等国産材時代に向けての対応も整いつつあります。農業関係におきましても国際化の中、従来にも増して厳しいものがありますが、貿易上の変化による繭価の回復により養蚕家も一応愁眉を聞く状況を迎えましたし農産物奨励五品目も着実に生産体制の整備が進められております。

また校下民、児童待望の大杉小学校並に体育館の改築工事も順調で三月完成の見込みであり、社会福祉事業も全般に亘り関係者各位の努力により極めて良好に運営されて参りました。

更には町民の皆様にとって関心の深い町財政の運営につきましても、公債比指数一五％台を維持し健全に推移して居ります。

このように町の行財政運営が堅実に進展をみつつありますことは町民各位の御理解のもと、議会と執行部が渾全一体の行政理念のもと恰も車の両輪の如くその個有の職責を尽くした結果であると存じます。

さて本年におきましても四国が島でなくなり四国横断自動車道の開通を数年後に控えて二十一世紀嶺北休暇センターの建設をはじめ、昭和六十五年度採択に向けての森林パーク構想のメーンである家族旅行村の誘致と受入態勢の確立、道路網をはじめとする社会資本の充実、農林業の振興と生涯教育を中心とした人づくり運動の展開、健康づくり、社会福祉の充実等と、私共に課せられた責務の重大なることを銘感し一層の努力を傾倒する決意であります。町民各位のこの上共の御理解、御協力を切にお願いする次第であります。

今更申し上げるまでもなく全町民が一つ心になって「豊かで明るい町づくり」という共通の目的に向かってそれぞれの立場から参加し力を発揮することが町発展の基本であります。それを支えるのが町是ともいうべき「和衷協力、融合一体」即〝和〟を基調とする「創業の精神」の自覚と再確認であると考えます。

乾坤一転立ち返った歳は新らしい太陽の光と共に私達の上に輝いております。

私は皆様の町行政に対する信頼と期待に応えるべく議会と相諮り、相提携し大豊町の生生発展のため引きつづき懸命の努力を致す所存であります。重ねて皆様の御理解御支援をお願いして止みません。

終りに臨み町民各位の一層の御繁栄と益々の御健勝を御祈念申し上げて年頭のご挨拶と致します。

森ケ梶荘山オープン新装

今年は巳年

今年は巳年、すなわち蛇年です。蛇は、十二支のなかの唯一の爬中類ですが、古くは恐竜、現代では亀やトカゲ、ワニなどの仲間です。

蛇と聞いただけで、嫌悪感をもよおす人もいるようですが、それは多分にあのグロテスクな姿のあの細長いからだで、内臓はどうなっているのだろう？……

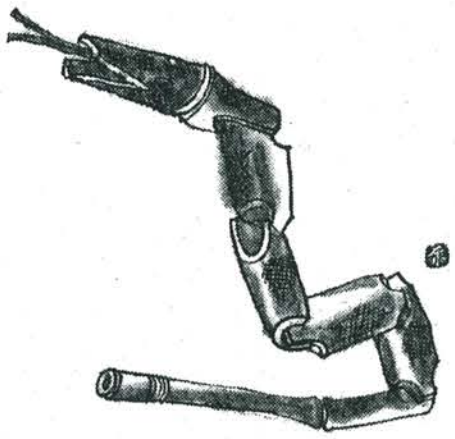
ご心配には及びません。内臓も体に合わせて細く伸びているほか、腎臓など本来は左右にあるべきものが、前後に位置を占めておさまっているようです。

蛇は、古来、恐れられ排斥される一で、崇拝と畏敬の対象でもありました。日本では、神のお使い、あるいは神そのものと思われていた様子が、古典や伝説、昔話に多くみられます。

例えば、池や沼の主を大蛇とみて雨ごいをする風習は全国的にもあるといわれます。また、白い蛇を家の神とする信仰も各地にみられます。

ところで、蛇は集団をつくらないといわれます。蟻などのような社会組織や集団生活の例は、まったく知られていないということです。いつも〝ひとり〟で孤独な生活をしています。そのため、異性と出会う機会がたいへん困難だということです。ちょっとさびしい話ですね。

ところで蛇は、生きている間ずっと成長し続けます。発育にともなって、古い皮は三か月に一度定期的に脱ぎ捨てられ、新しいのと取り換えられる――脱皮です。お正月を機に今年こそは新しい試みをと、脱皮を心がけておられる方、うまくいくといいですね。



ごあいさつ
町民に生甲斐ある町づくり
二十一世紀を展望した基盤づくりの年

大豊町議会議長　桑名　芳雄

明けましておめでとうございます。町民の皆様、お揃いで新年をお迎えの御こと、謹んでお悦びを申し上げます。

昨年は町議会も執行部と一体となって町勢進展の為大過なく越年する事ができました。これも偏に町民の皆様の温い御指導御支援の賜と有難く御礼申し上げます。

昨年は高知自動車道開通記念行事として88れいほく高速博が素晴らしい手造りの博覧会として成功する事ができました。これは物質的のみでなく行政的にも信頼と大きな自信を深め嶺北の存在を広く紹介し将来の飛躍への基礎作りに成功しました。これは主催者の綿密な計画と大胆な実行力と町民の皆様を始め嶺北地域の総力の結集の賜であります。

又昨年四月には夢の架橋と言われた瀬戸大橋が開通、高速交通四国新時代が到来し、人、物の流れの変化が見られ一方早期に瀬戸内経済圏に直結するよう熱望している川之江、大豊間二十九キロの町内全工区が発注され急速に工事が進行しております。過疎と老齢化の進んでいる中で目紛しい国際化、情報化、高速交通の新時代に対応できる町づくりの施策が強く要請されます。立地条件のきびしい本町ではありますが文化的で経済性を充分考慮し町民に生甲斐と潤いのある町づくりの為に低迷する農林業を始めとする産業の振興、大自然と歴史文化財等を活かした観光開発業等二十一世紀を展望する基盤づくりに取り組まなければなりません。

昨年六月には山荘梶ケ森が完成し好評裡に利用されております。本年はれいほく21世紀センター建設事業の実施、中村大王に予定されている家族旅行村の誘致運動等新時代に向けて進展しております。尚一層町民の皆様の御理解ある御支援御協力をお願い申し上げます。

終りに望み皆様の限りない御多幸と御繁栄を心から御祈念申し上げまして年頭の御挨拶と致します。

新教育委員に
小笠原美身（セ一）　豊永　幸利（五八）　両氏就任

小笠原美身氏

豊永　幸利氏

教育委員、平田隆城氏（高須）並びに上村孝行氏（柚木）は去る九月三十日をもって任期満了となったため、渡辺町長は新らしい委員任命同意議案を九月定例議会に提出、豊永幸利氏並びに小笠原美身氏が新しく選任された。

これより教育委員会の組織は次のとおり。

委員長　江間幹夫（本村）
委　員　三谷和子（寺内）
委　員　小笠原美身（立川下名）
委　員　豊永幸利（大篭）

生涯教育（学習）を基盤とした豊かな町づくりを

大豊教育長　永森　信良

皆様、ご家族お揃いで良いお年をお迎えになられましたことと、心からお慶び申し上げます。

我が国は戦後におきまして平和国家、文化国家として世界に誇る経済大国となり、科学技術の高度の進展とともに情報化、国際化、高齢化等、社会の急激な変化の中にあって、二十一世紀へ向けて個性豊かで活力ある、たくましい人づくりと、明るい社会の創造が求められる今日、教育に対する期待が益々増大しているところであります。

近年、経済の発展により物質的な豊かさや便利さとともに、生活も安定してきましたが、その反面において、精神的、文化的な心の豊かさが希薄化され、また労働時間の短縮や、平均寿命の延びにより余暇の時間が増大し、教育水準の向上と相まって、町民の学習意欲が高まり、その内容も多様化、高度化しつつあります。

こうした社会において、豊かな心を持ち、より充実した生きがいのある人生を送るためには、学校教育はもとより、だれもが生涯を通して学習し、社会の変化に主体的に対応できるよう、自分自身を高めるための学習が必要とされているところであります。

文部省におきましても社会教育局を生涯学習局に改め省内の筆頭局として発足し、「生涯学習体系への移行」を教育改革の基本としております。

本町においても、生活課題や学習課題について、本町の特性に合った総合的な生涯教育の推進が急務であり、先に大豊町生涯教育検討委員会設置条令を制定致しまして「大豊町の特性に合った総合的な生涯教育の推進方策について」検討委員会に諮問をいたしました。現在は検討委員会において慎重に、ご審議をいただいているところであり、間もなく答申をいただくことになっております。特に生涯教育の課程での学校教育においては道徳教育や体育に関する指導の一層の充実を図り、豊かな体験を通して、基本的な生活習慣や、望ましい人間関係の育成を図り、自から学ぶ意欲と、急激な社会の変容に主体的に対応できる、たくましい人づくりを一層重視して、教育課程の基準の改善が行なわれています。小学校では六十七年度から実施のはこびとなり、遂次中学、高校と改善されることになっており、二十一世紀に生きる、たくましい人づくりの教育が最重要視されているところであります。

また私達の生涯における日々の活動は健やかな心身を基盤としてこそ可能であり「地域社会の活力は、住民一人一人の健康が一番大切である」と言えます。長寿化にともない、多岐にわたる心身の健康に関する問題を総合的に、また判りやすく、生涯にわたって学習する、健康教育充実のための施策が今後一層重要になってくることは改めて申し上げるまでもありません。

以上生涯学習についての、ご認識とご理解をいただきまして、皆様方のご期待に添えるよう、答申にもとづきまして、「いつでも、だれでも、どこでも」学習ができる、望ましい生涯学習の町として、恵まれた自然と、すばらしい郷土の文化遺産を生かし、健康で思いやりのある豊かな心と、ふるさとを愛し、ふるさとに生きる人づくりに、教育委員会職員一同意を新にして、これらの諸問題に取り組み、努力してまいる所存であります。

皆様方のご指導とご協力の程をお願い致します。

終りになりましたが皆様方の御健康と御多幸を御祈念申上げまして、年頭のご挨拶と致します。

☆☆☆

高知県こども芸術劇場『劇団らくりん座』公演

大豊中体育館に600人

本格的な舞台を満喫

〝子供ら深い感動〟

県教育委員会の主催による『児童演劇地方巡回公演』が去る十一月七日、大豊中体育館で開催されました。

この公演は日頃演劇などに県下六会場を巡回することになりました。『らくりん座』は昭和二十七年に財団法人『日本教育演劇道場の付属劇団として発足し、子供たちに夢と楽しみをあたえる劇団として好評のうち、日本中の小・中学校を公演して回っており観客動員数も五百万人近いといわれ素晴しい劇団です。

この日大豊中体育館には町内全小学校と大豊中学校の児童、生徒ら約六〇〇人が集まり本格的な舞台演劇を満喫しました。

今回上演された『ゆきと鬼んべ』は、さねとうあきら作、浅野聆子演出によるもので公演回数も四百五十回を超え当劇団の自信作の一つ。物語りは山奥にやさしい父親と住む「ゆき」という盲目の娘が旱ばつに苦しむ村人のため天地を支配する龍神のもとに自分の生命を投げ出し飛びこみ村人達を救い開眼するという物語。横糸に自分の母親とも知らず龍神（山んば二役）に銃をむけゆきを救う鬼んべの悲哀や、いたずら坊主の小太郎天狗、口べらしのために地に埋められた小さな命を堀りおこし養う山の魔物デェデラ坊がからみドラマは展開します。一見単純明快な劇ですが清潔感にあふれ生きることの尊さを訴え子供たちの感動を呼びました。

公演開会には永森教育長が日頃一生懸命勉強している皆さんに御褒美として『らくりん座』の方々が楽しい劇を見せてくれます。しっかりと見て何か心に残るものをつかんで下さいとあいさつ。また同劇団の浅野聆子代表からはテレビと劇の違いは『劇はやる人と見る人が一諸になって作るもの。目で見て、耳で聞き心で感じて下さい』とあいさつ。開幕は場内にドラが響き渡り明かりが一つ一つ消され舞台は小鳥の鳴声や谷川のせせらぎの音が流れ山奥の景色が照明に照らされ浮かびあがる。観客席の後方から主人公のゆきが澄んだ歌声とともに背負子姿で舞台にあがる。開演までのざわめきが一瞬のうちに消え、ゆきが『よい子の皆さん今日わ』と会場に呼びかける。子供たちは一勢に『今日わ』と答えかえし大きな拍手がわき起った。公演は約二時間に渡ったが、子供達はいたずら者の鬼んべや小太郎天狗のユーモラスな動作を見て笑い、病の床に臥す龍神を介抱するゆきのやさしい姿に涙するなど大掛りな舞台装置や照明音響効果も加わり、瞬く間に子供達を劇の世界へと導き場内は感動の渦につつまれアットいうまに時間がすぎました。劇団の浅野代表は『子供達は低学年も多かったが劇の呼吸に合わせ素直に見てくれてうれしかった』と感想を語っていた。

あいさつする『うくりん座代表』浅野聆子氏

『ゆきと鬼んべ』の一幕（右）ゆき（中）鬼んべ（左）小太郎天狗

初めて見る舞台、真剣な目指し〝感動〟

地域に根ざす教育の創造

指定研究発表会開催（大田口小）

子どもら大田口の研究

太刀踊りや伝説・歴史（発表）

昭和四十六年大杉中学校を皮切りに毎年実施されている研究指定校（大豊町教育委員会指定）の研究発表会が去る十一月十六日指定校の大田口小学校で開催されました。

発表会には町内小中学校教職員並びに町教育委員会、大田口小PTAなど関係者ら約百五十人が出席しました。今回発表されたテーマは『地域に根ざす教育の創造』と題して大田口小学校が六十二年から六十三年にかけて取り組んだ研究発表ということで関係者から注目を集めました。

研究発表はまず午後一時二十分から各学年別に教材を定め公開授業が行われたのち、午後二時二十分からは会場を体育館に移し子供達による研究発表が行われました。研究発表はまず三年生以上を三班に分けての発表形式をとり最初は全校生徒による合唱『オキクルミと悪魔』という長い曲を先生のピアノにあわせ見事に合唱し拍手喝采を受けました。父兄の中には『あんなに長い歌をよう覚えたこと』と感心する者もおり素晴しい発表が出来ました。

音楽発表に続いては「船戸」の歩んだ足跡と題して一班の発表がありました。

発表内容は忘れ去られつつある郷土の歴史に目を向けたもので地元の古老に聞いた船戸部落の生い立ちと歴史に大田口校下の移り変りを重ね演劇風にまとめあげ共感を呼ぶ発表でした。

また、伝説の研究『みぶち伝説』の二班の発表では校下のだれもが幼い頃一度は聞いたことのある不思議な話を現代風によくまとめあげ舞台の背景や演出にも趣向を凝らし素晴らしい発表となりました。

発表部門の最後は三班による「太刀おどり」の発表で二十五名の子供らが白衣に濃紺のハカマをつけ真赤なタスキがけにキラキラ光る太刀を持ち勇ましい姿で入場。畑先生の打つ拍子木に合わせ苅谷教頭先生の音頭が場内に響き渡り子供達は真剣な表情でエイヤーと掛け声をかけながら踊り、場内から盛大な拍手がおこりました。

この太刀おどりは古くから寺内部落に伝わるもので昭和五十九年には町の無形文化財に指定され寺内の「太刀踊保存会（会長上村芳晴）が地元の若者を中心とし伝統芸能としてその保存継承に努めてきました。

しかしながら過疎化の進むなか会員も少なくなり加えて老齢化が進み折角の伝統芸能の伝承が困難となりつつあります。

保存会では何とかして郷土の財産として後世に残したいと考えた末、数年前から大田口小学校の児童による伝承をと学校側に相談をしておりました。

学校側では丁度六十二年度に町教育委員会の研究指定校に指定され『地域に根ざす教育の創造』を研究主題として研究に取りくんでいる時でもあり、学校教育は地域の人々の理解と協力によるところが大きいとの校長先生を初めとする諸先生方の深い御理解により、太刀おどりの練習に取りくむことになりました。折しも大田口小学校の後援会として発足した「大田口小学校教育振興会（会長中西盛興）」の地区別教育懇談会でも話題となり、校下民の賛同と協力を得て多大な寄付金も集まり、太刀踊りの衣裳や太刀等が一式揃いました。

こども達は昨年の五月頃から十一月まで毎週火曜日に保存会員の熱心な指導のもと練習に励み今回の発表にこぎつけました。

子供達は大人と比べ比較的覚え込みも早く素直で踊りの迫力にはいま一つ欠けるところもあるが短期間によくここまで上達したものだと指導者や先生方も驚いており将来が楽しみです。

また、あのむつかしい音頭を（歌）プロ並に歌いこなす苅谷教頭先生の素晴らしさや、子供らと意気を合せて一諸に踊る岡林先生、拍子木の畑先生本当に御苦労様でした。

本研究発表会の成功を心からお慶び申しあげます。

船戸の歩んだあしあと研究発表

文化祭で太刀踊を披露した大田口小児童

満二十歳になった大豊町体育会

発足20周年記念大会（大杉中体育館）

元巨人軍監督・川上哲治氏迎え記念講演

昭和四十四年七月十二日に大豊町体育会が発足しまして、早や二十年になりました。（会長、野島孝彦、会員数七四三名）。

この二十年のあゆみでは、町民の体力増進と健康づくりを基本に体育会活動を行って参りましたが、その間、国体や県体そして町内外の各種のスポーツ大会等に町体育会員として出場し数々の実績を残すこともできました。また町内でのスポーツ愛好者も年々多くなっているのが現状です。

町体育会では、この二十周年を記念し各部による記念行事が行なわれました。（二十時間ソフトボール大会・バレーボール・剣道・バドミントン・ゲートボール・マラソン大会など）。

その全体会としまして去る十一月二十日大杉中体育館にて、元巨人軍監督・現NHK解説員、川上哲治氏を迎え特別記念講演など二十周年記念として多彩な行事が行なわれました。

大豊町体育会発足二十周年特別表彰受彰者

大豊町長表彰

町体育会会長、野島孝彦

体育会員、桑名藤義

体育会長表彰及び感謝状

秋山信吉、高橋康彦、高橋俊郎、小笠原哲浩、阿波井清次郎、樋口喜三、豊永雄五、西岡里志、川田幸作

（社会教育班）

記念講演の川上哲治氏

不起訴だとあきらめていませんか

もう一度調べ直してもらえる道がある

子供が交通事故で大けがをした。でも、車を運転していた人は裁判にもかけられずにいる。おかしい。そんな疑問に検察審査会は答えます。検察審査会制度ができて六十三年の七月十二日で四十周年を迎えました。

検察審査会は、選挙権を有する国民の中からくじで選ばれた十一人の検察審査員（任期六カ月）で構成され、検察官のした不起訴処分が正しかったかどうかを審査することを主な仕事としています。

検察官は、ある事件を起訴するかどうかの判断を任されているので、証拠が十分でない場合のほか、証拠があっても、いろいろな事情を考慮して容疑者を処罰する必要がないと考える場合には、事件を起訴しないことができます。しかし、たくさんの事件の中には起訴すべき事件を不起訴にするということもないとは言えません。

検察審査会は、そういう場合のために設けられ、検察官の不起訴処分のよしあしについて国民の健全な常識を反映させているのです。

そして、審査の結果「不起訴不当」又は「起訴相当」の議決になった場合は、その議決書謄本の送付を受けた検事正が、それを参考にして起訴すべきかどうか再検討し、起訴するのが相当だという結論になると起訴の手続きをとります。

検察審査会は、全国の主な裁判所の中にあります。審査申し立ての手続きは簡単で、費用は一切かかりません。また、申立人の秘密は固く守られます。

検察審査会について詳しく知りたい方は、次のところへお問い合わせください。

高知市丸ノ内一丁目

三―五、裁判所内

高知検察審査会事務局

電話〇八八―三―〇三四〇

内線三三）

こどもキャンプ大会
県立香北青少年の家
共同生活を通し
楽しく遊び学んだ二日間
大雨のなか緊急避難も懐かしい

恒例の大豊町こどもキャンプ大会が、去る八月十八日（木）十九日（金）香北町の県立香北青少年の家で行われました。

このキャンプ大会は、町内の小学校四年以上の児童を対象とし、町教育委員会が毎年夏休みに実施している事業で子供達に人気のあるキャンプ大会である。

教育委員会では、参加児童が一校に片寄らないよう町内学校長会に相談して各学校間で調整して頂き、百余名の中から四十一名が参加しました。

当日は心配された天候もどうにかもちなおし午前九時に役場前を全員元気に出発しました。途中バスの中では自己紹介をしあい、うちとけた雰囲気のうちに午前十時三十分に目的地の香北青少年の家に到着しました。

本年は従来お世話頂いているボランティアの浜田豊高さん（日浦）小林康夫さん（穴内）長野孝さん（高須）のほかに連合青年団長坂本諭さん（粟生）と前団長の森一芳さん（怒田）が指導者として加わって頂き総勢五十人余りの大世帯となりました。

このキャンプ大会は子供達に協同作業で運営させ、日頃付き合いのない町内の子供達が共同生活を通じて友達づくりをし、楽しく遊び学ぼうという方針で取り組んでおります。

現地に着いた一行は一休みのあとオリエンテーションに移り中央公民館長から「二日間みんなで協力しあい共同生活を通じ楽しく遊び、そして学び、楽しい思い出とお友達を沢山つくって下さい」とあいさつがあり諸注意の後、四－五人の班に分かれテント張りに挑戦しました。テント張りは経験者も多く比較的苦労もなく無事完了し各自持参の昼食をすまし、一休みの後ボランティアの長野孝さんの指導で楽しい野外レクリエーションに興じ、子供達の歓声が香北町の山々にこだましました。

キャンプにきて一番楽しいことは、レクリエーションはもとよりおなかをすかしての野外料理はまた格別である。

午後四時には各班ごとに夕食材料の牛肉、野菜、米や飯ごう、薪がくばられ、米をとぐ者、野菜をきざむ者、各班長の指示によりなれぬ手付で悪戦苦闘していた。それでも一時間くらいたつと、焼肉をかこみ焦げた御飯を食う者や上手に炊けた御飯をおいしそうに食べるグループ、顔に炭を一杯つけ煙に目を真っ赤にしてまだ炊けぬ飯ごうをうらめしく見詰める男の子など、悪戦苦闘の夕食がすんだ頃は太陽は西の山に沈んでいた。

夕食の後は七時半からキャンプファイアーに移り、ボランティアが高く積み上げた薪にはるか彼方から予め準備された鉄線を通じて火の玉が飛び込み見事点火。あたりはパッと明るくなる。子供達の顔が輝く。火の神に扮した鈴木先生（元大杉小学校校長・現補導専門職員）が白衣まとい暗闇の中から現れ、大豊の子供らに幸せあれと祈りながら火の神から各班長のトーチに火が点もされ、続いて各班員のトーチに班長から分火され大きな火の輪がキャンプ場一帯を照らし出し子供達も感激。厳粛な儀式も無事終了後は、たき火を囲み楽しいゲームや各班で趣向をこらした寸劇などの発表があり、優秀な班には賞品も贈られ子供達は大喜びでした。

今年参加した子供達は、例年に比べすべて積極的な子供が多く協調性に富み、スタッフの心配もなく素晴らしいキャンプ大会となりました。

しかしながらその半面、自然現象には勝てず、台風の影響か子供らが寝静まった十一時すぎから思わぬ大雨がキャンプ場を襲い、またたく間にテントの中に水が流れ込み、あちらこちらのテントで子供の騒ぐ声が聞こえテントでの就寝は不可能になり大慌てをしました。それでも青少年の家の御配慮により本館の研修室にマットを敷き、毛布を借用してボランティアや職員の誘導で十二時すぎに無事避難することが出来ました。

もしこれが、避難場所のない僻地であったらと思うと、今更ながら五十人余りの移動が適切に対応出来ていただろうかと思うと背筋が寒くなります。

翌朝は昨夜の大雨は嘘のような上天気となり、心配されていた海水浴も可能との情報も入り子供達は大喜び。一時間ほど余分に睡眠をとらしての朝食準備も昨日の経験を生かしてかスムーズに出来上がりおいしくたべた後はみんなが協力して後片づけをすましました。

十時過ぎに手結海水浴場に到着し夏の太陽を一杯浴びて心ゆくまで海水浴を楽しみ二時すぎには事故もなく無事帰途につきました。

一泊二日の短いふれあいではありましたが、子供達は楽しいゲームやキャンプファイアー、大雨の中での避難など思い出どっさり友達も出来たと喜んで帰っていきました。〝来年もまたね〟

テント張りはなれたもの

私達はオカズ作りなの

火の神（鈴木先生）より各班長に分火

第二十一回梶ケ森紅葉探勝と
文化財巡りツアー
紅葉狩りと初樹氷楽しむ

去る十月三十日（日曜日）に、大豊町商工会及び、大豊町観光開発協会の主催による、第21回花めぐりツアー「梶ケ森紅葉探勝と文化財巡り」が行われました。

参加人数30人は、JR豊永駅に、八時二十分に集合し、歓迎セレモニー、日程説明の後、もみじ号とかえで号のバス二台に乗り出発した。

一行は、龍王の滝入口の駐車場で、バスから降り、龍王の滝を見学の後、定福寺奥の院で、佐賀山婦人会手づくりのみょうがの葉でくるんだ団子を食べ、ゴロゴロ八丁を下りてくる人々から、『紅葉と昨日の雪と、今朝の樹氷がものすごくよかった』の声を聞きながら、次の名勝めぐりへ。

真名井の滝、もみじ川、みどりいっぱいの苔の岩、御影堂とまわり、ところどころで写真をとりながら昼食の待つキャンプ場へ。

ここでも、同婦人会の方々の手造りのごちそうを、おかわりしておりました。

山荘「梶ケ森」の前で記念撮影の後、一行は寺内の薬師農園に移動し楽しい芋堀りを体験した後、国宝薬師堂を拝観しました。

薬師堂では方丈さんから「彫りものひとつない平安時代の代表作で、これ以上古い建物は四国にはなく、四国の方隆寺といわれており、建物では、高知県唯一の国宝です」などと詳しい説明を聞き、御本尊の薬師如来坐像や、釈迦如来坐像、阿弥陀如来坐像を拝観することができました。

ツアー客は、寺内の手打ちうどんを御馳走になり、薬師堂の中にはいることもできたし、隣りにある若一王子宮の彫物も見学できて本当によかったと喜んでおりました。

JR大杉駅では『お世話になりました。来年の福寿草の時もよろしくお願いします』の言葉を交わしながら解散した。

ツアー客一行、梶ケ森頂上付近見事な眺望に見とれる。

第十七回ふるさとまつり
高知市柳原緑の広場で
山海の味と香り
集めてフェスティバル
褐牛のバーベキュー
立川御殿そば人気上々

土佐の海と山からの自慢の味と香りを集めて、フェスティバル土佐『第十七回ふるさとまつり』（RKC高知放送主管）が去る十月二十二日から三日間、高知市柳原の鏡川緑の広場で開催されました。ことしは県下から四十八の市町村と団体が参加し、過去最多だった六十一年と並ぶ記録となりました。懐かしいおらんくの名物がお城下に勢ぞろいしました。この催しは今回で十七回目を迎え『夏の鏡川まつり』と並び『秋のふるさとまつり』としてすっかり定着し売る人も買う人も待ちかねている祭りとなりました。

今年も大豊町では農協や生活改善グループ、町産業課の方々が中心となって参加し、ふるさと大豊の特産物の販売や観光宣伝に一役買いました。

本年は天候不順が続き祭りの天気が心配されましたが、連日上天気に恵まれ気温も平年より高めとかで初秋とは思えぬ気候となり田楽やバーベキューを焼く顔に汗がにじんでおりました。

大豊町では今年も例年のとおり、特産の冷涼地野菜（トマト、ピーマン、秋豆、シシトウ、うど、わさびなど）や生活改善グループの会員が腕にヨリをかけて作ったみそ、漬け物類、コンニャク、ユズジュース、山菜などの一次加工産品や栗、ユズ玉など大豊の秋の味覚を一杯展示販売し、大豊の人気は上々でした。

昨年までは手狭で苦労した売り場も特別に一コマ増やしてもらい、田楽コーナーや立川そば、褐牛のバーベキューコーナーも比較的ゆっくりとした売り場となりました。

庵谷の褐牛のバーベキューコーナーでは、88れいほく高速博等で経験豊富な庵谷和牛研究会の御婦人方が炭火に頬を真っ赤にほてらしエプロン姿での呼び込みもよろしく、味よし、香りよしで大繁盛。忙しそうに立川そばを運ぶおじさんの顔もにこにこと。苦労の中にも自分達が精魂こめて作ったものを喜んで買ってくれるお客さんがそこにいる。作る、売る喜びを感じた年に一度のふるさとまつりでした。

お美味しい褐牛のバーベキューいかがですか

人気上々の特産物

『山荘梶ケ森』オープンから六カ月順調な経営

宿泊客は二、四〇〇人余り
生かせ山岳観光の拠点施設

大豊町が六十二年十一月から県立自然公園梶ケ森に建設を進めていた休養休憩施設『山荘梶ケ森』が完成し早くも半年が過ぎました。

この施設は昭和六十二年度新林業構造改善事業の森林総合利用促進事業として林野庁の指定を受け、総工事費一億六千五百万円をもって完成したものです。

事業の目的は、保健休養の場として楽しまれている梶ケ森の優れた景観を総合的に利用し、森林所有者や林業従事者の就労の機会と、所得の向上並びに梶ケ森を訪れる人々に森林と林業について一層の理解を深めてもらうことを目的として設置されました。

山荘は木造平野建七七九平方㍍で梶ケ森頂上から約二百㍍下った町有地、約四千平方㍍を造成し建築されております。建物は内外装に国産材の杉、ヒノキ、松をふんだんに使用。周囲の景観との調和をはかりながら強風、積雪などの自然条件を考慮して建物の高さを低くする一方、床を高くするなど設計されており、眺望も素晴らしい建物です。

内部は研修室十五畳二室、休養室（宿泊）和室八畳六室、洋室四室（一室二段ベット四）があり、宿泊収容人員は四十人となっておりますが、研修室も利用すると約七十人は宿泊が可能です。

また、レストランは六五・六平方㍍で四十人を一度に賄える広さで大きな絵の丸太が中央に立ち、テーブルやイスは杉や桧の温かみを生かした造りとなっております。正面玄関を入ったロビー（四八平方㍍）には農林産物などの特産品、お土産を販売するコーナーが設けられ一般にも開放されております。その他の施設としては、広々とした衛生的な風呂男女各一室（七二平方㍍）厨房（三二・八平方㍍）に従業員室、管理人室、便所等が設置され、別棟にはボイラー室（機械室）洗濯室、倉庫等をとり木の香りあふれる通風彩光とも申し分のない立派な山荘です。

梶ケ森は頂上からの壮大な眺望と日帰り登山の可能な山として多くの人々から親しまれており、昭和三十九年には県立自然公園に指定されて以来、春から秋の行楽シーズンには県内外から約三万人を超す登山、観光客が訪れておりますが施設としてはキャンプ場しかなく日帰り客がほとんどで宿泊施設の設置が強く望まれていた。この『山荘』の完成により、滞在型の山岳観光が可能となり、本町観光開発計画の拠点となる施設として期待されております。

ちなみに嶺北五カ町村の現有観光宿泊施設を見ると本川村の「しらさ山荘」をはじめ大川村の「自然教育センター・白滝」土佐町の「早明浦荘」など、各町村とも宿泊施設を核とした観光開発に積極的な取り組みを行い成果をあげております。

一方本町は高速道インターチェンジ並びに一級国道32号、国道439号、JR土讃本線が町内を通じ交通的にも便利なうえ、歴史的にも国宝、重要文化財のほか優れた自然景観を有しているものの宿泊施設がないため通過型の観光にあまんじてきました。

町では高速交通時代での山岳観光開発を目指した大豊町観光開発計画の中で、梶ケ森を中心においた山岳観光開発に取り組むことになり、昨年町道梶ケ森線（十二・四㌔）を完全舗装するなどして積極的な取り組みを行っているほか種々の計画をたてております。

山荘の従業員については管理人として町産業課課長補佐（前）の三谷岳生氏が着任し専従職員としては八畝出身の西村政子さんを配置するとともに、料理長には伊野町出身の渋谷憲正さんが当たっているほか、観光客の多い時には地元の婦人をパートとして雇用し順調な経営が行われております。

六月二十二日オープンからの山荘梶ケ森の利用状況を十月末までで見てみますと、宿泊客二千四百人、レストラン利用客八千六百二十人、総売上額で二千四百万円となっております。

本年度にこの施設の運営のために予算化した金額は四千万円であり、六月二十二日から十月末までの間に予算額の約六〇パーセントの粗収入を上げています。もっともこの期間は山は一番親しまれる時期であると思われますが、これから秋の紅葉、冬の樹氷時節も適時適切に生かして年中無休で今後とも地域の活性化につなげていきたいと渡辺町長は語っております。（一部議会だより秀峰三十七号行政報告）

町民の皆さんも是非一度梶ケ森山荘において下さい。また友人知人等にもお知らせして"ふるさと大豊"を広く売り出すよう御協力をお願いします。

なお使用料は宿泊（夕・朝食含む）は大人四千八百円、小人（小学生）四千百円。会議、宴会などの貸室料は二千円～三千円（三時間まで）とわかっている。

お問い合せは山荘梶ケ森（電話〇八八七・七四―〇二五六）まで。

広々とした研修室

40人を賄えるレストラン

嶺北消防団夏期訓練板送り大会

嶺北消防団連合会主催による夏期訓練の板送り大会が、去る八月二十一日に本山町で行われました。

この大会は、消防団員の消防技術の向上と団員の士気の高揚、消防精神の涵養を図り、以って消防活動の進歩、充実と団員相互の親睦を図ることを目的として開催され県下でも数少ない大会です。

大会には嶺北五カ町村の消防団三十三隊、六三五人が出場し、大型ポンプの部（国家検定B2級）、小型ポンプの部（国家検定B3級）の二組に分かれ熱戦が展開されました。本町は町内で去る八月七日に行われた予選を勝ちぬいた十四部中、七部（大型三部・小型四部）が出場し小型ポンプの部で東部分団大久保部が優勝、岩原部が準優勝、西峰部が三位に入賞しました。また大型ポンプの部でも大田口分団船戸部が三位にくいこみ六賞のうち大豊町は四賞まで獲得するという快挙をなしとげました。たのもしいかぎりであります。

小型ポンプの部　大久保部	優勝
同　岩原部	準優勝
同　西峰部	三位
大型ポンプの部　舟戸部	三位

大久保婦人消防隊

十六年の活動実績称え

財団法人　日本消防協会長表彰受賞

全国婦人消防操法大会に出場（横浜）

昭和四十七年以来、大豊町唯一つの婦人消防隊として活躍している大久保婦人消防隊（会長中西春子＝大砂子「隊員16名」）が去る三月九日、東京・武道館において、財団法人日本消防協会長表彰（会長笹川良一）を受賞しました。

この表彰は日本消防協会が毎年全国で特に優れた消防活動を行っている団体に贈られる賞で、自治体消防制度四十周年記念式典において全国で四十七の婦人消防隊が表彰されました。

高知県からは、大久保婦人消防隊のみということで、発足以来十六年間の優秀な活動が認められこの度の受賞となりました。

受賞式には中西春子会長と三谷順子（隊員）が出席し、映えある表彰旗と賞状並びに隊員全員に紫色も鮮やかな制服と制帽が贈られました。

大久保婦人消防隊は、昭和四十六年十二月二十三日、地区内の民家に火災が発生。折しも昼間であったことから消防団員のほとんどが不在のため消火活動が遅れ、なすすべもなく消失したことが契機となり、消防団員の婦人を中心に自分達の地域は自分達で守ろうと立ち上がり、昭和四十七年三月一日に石川久寿千代さん（大砂子）を初代会長とする大久保婦人自営消防隊を結成しました。

この婦人消防隊は、あくまでも私設消防隊であることから安全を第一として出動は地元地区のみとしてその啓蒙活動等を続けて来ました。また、地元消防団員の手ほどきも受け、万一有事の際には消火活動が援助出来る体制をとっております。結成当初は町からヘルメット、ハッピの援助を受け、大豊町夏季消防演習に参加して以来、消防団恒例行事である「出初め式」「夏季演習」には毎年出席し消防団員と一緒になって義勇的精神のもと消防に対する認識を深めております。

昭和五十八年度においては日本消防協会の助成事業により軽可搬消防ポンプが導入され、本消防隊も充実し、隊員達もその責務を重んじ、定期的に機械器具の点検整備を実施し有事に備えております。

また、毎年実施する出初め式においては、自分達で整備したポンプを持参し消防団と同様に町長及び消防団長等の検閲を受けるなど、積極的に町消防団行事にも参加しております。

"バケツリレー、消火器使って隣家の類焼防ぐ"

最近の大久保婦人消防隊の活躍を紹介しますと、昭和六十年七月二十日、午前一時四十四分、地区内の大砂子集落で発生した民家の火災では水利の不便な所で消防団による放水消火に時間を要しましたが、婦人消防隊員による消火器及びバケツリレーにより隣家への類焼を食い止め、消防団員への援助活動が称えられました。

最近では地区内で火災を出さない運動を展開し、老人世帯、特に独居老人世帯の火災予防指導や地区内住民に対し消火器使用訓練等防火思想の普及に努めております。

また、中西春子会長においては高知県の防災クラブ連絡協議会の理事としても活躍しております。

以上のような経過と実績がこの度の全国消防協会の優良消防隊調査で認められ映えある受賞となりました。

なお十月二十六日には、全国婦人消防隊操法大会が神奈川県横浜市で開催され、大久保婦人消防隊は高知県代表（九市町村36隊中）として出場。大会には二十一人の隊員の中からチームを編成。指揮者は北村広子さん（三三）、選手は北村悦子さん（三七）、吉松美記さん（三七）、中西美佐さん（三九）、北窪美佐子（三六）の五名が出場（補助員として五名出場）し、日頃の猛練習の成果をいかんなく発揮し好成績をおさめました。

町都築消防主任を囲み記念撮影

婦人消防隊の皆さんを囲んで　祝宴

東部分団大久保部

受賞祝い盛大に祝賀会開催

東部分団大久保部（部長中西章雄＝部員二十三名）では、去る六月十九日、大砂子公民館において婦人消防隊の受賞を記念し祝賀会を開催しました。

祝賀会には渡辺町長をはじめ西岡丈町消防団長、川田嶺北消防署長、地元出身の北村寿夫町議、都築康代町議ら来賓と消防団員、地元関係者ら約七十人余りが出席しました。

祝賀会で挨拶に立った中西春子会長は、「今回の受賞は私達消防隊にとってはこのうえない名誉であり光栄である。また同時にその責務の重大さを痛感する。

これも偏に町執行部、嶺北消防署をはじめ関係機関の御指導と御援助並びに地元消防団先輩の御尽力の賜である。

何分にも家庭にたずさわる婦人のことで十分な活動は出来ないが、今回の受賞を契機としてお互いに婦人消防隊員として自覚と責任を認識し、安全対策、地域の火災予防や防災対策活動に精一杯努力を続ける。

尚、十月に横浜で開催される婦人消防隊ポンプ操法全国大会には県代表として出場することになった。

一生懸命頑張ってきます。町並びに嶺北消防署、地元消防団等には尚一層の御指導と援助をお願いする」と力強く挨拶し会場から盛大な拍手を受けました。

続いて来賓として渡辺町長、並びに川田嶺北消防長、北村寿夫町議から励ましの言葉があり全員で乾杯の後、婦人消防隊員を囲み和やかな祝賀会に移った。

尚この日ばかりは、吾が妻達のため男子消防団員は会場の設営から炊事場での酒沸かしや、運搬に汗だくで従事し、「カアーチャン消防隊員」にサービスをするなど大砂子公民館は夕方まで和やかなムードで宴が続きました。大久保婦人消防隊の益々の活躍をお祈りします。

第十八回嶺北総合美術展

大豊町皮切りに嶺北を巡回

特選　西村浩一（書道）東土居
丁野志げ乃（絵画）高須
西岡富美子（彫塑・工芸）本村

大豊町は褒状六点・推薦二一点・入選二六点

恒例となっている嶺北地方の芸術の祭典、第十八回嶺北総合美術展覧会が去る十一月十二日から十二月十四日まで嶺北各町村で行われました。各町村に集めた作品は慎重な管理のもと十月二十七日に本年度の当番町である本町農工センターに作品二一九点（うち大豊町五六点（昨年二五三点うち大豊町七十二点）が搬入されました。

部門別には絵画三二点（うち大豊町一三点）書道四七点（うち大豊町十点）写真一一〇点（うち大豊町十四点）彫塑、工芸三十点（うち大豊町十九点）の出展がありました。

十月二十八日農工センターでは各町村の関係職員が各部門に分かれ立会のもと下記の先生方により審査が行われ、絵画十七点、書道三十点、写真五十五点、彫塑、工芸十七点が入賞。大豊町を皮切りに、土佐町、本山町の順で巡回展示が行われ一般に公開されました。

大豊町では十一月十二日から十一月十六日までの五日間、農工センター文化ホールで展示され多くの町民が力作を鑑賞しました。

今年は特に書道の部で大豊町からは、東土居の西村浩一さんの「春望」、また絵画の部で高須の丁野志げ乃さんの「人物」、彫塑、工芸の部では本村の西岡富美子さん出品のベルト「流仙」の三点が特選に入賞するということでおめでたいかぎりです。

尚町内の入選作品は次のとおりですが、去る十一月十三日には農工センターで表彰式が行われ、嶺展会長の渡辺大豊町長から入賞者各人に賞状とトロフィーが贈られました。過去の表彰式には比較的出席者が少なかったにもかかわらず、本年は会場に多勢の入賞者が出席し盛大な表彰式となりました。渡辺会長は「嶺展発足当初は土佐町の方々が意欲が旺盛なほかは一般的にレベルも低く発起人として淋しい思いがしたが、回を重ねるたび出展数も増しレベルも大変高くなったことは、誠にうれしいことである。芸術のない町に文化の発展はない。皆様の手で今後ますます嶺北美術展を盛りあげてほしい」とあいさつをした。

審査員
絵画　中城克己（画家）
書道　大野祥雲（高知大）
写真　岡崎達彦（高知新聞）
彫塑　加藤　寛（高知大）
工芸

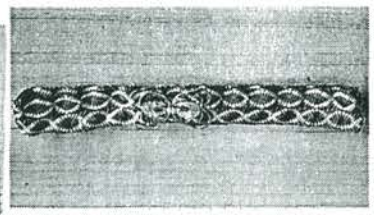
町内入選作者（大豊町のみ）
○絵画の部（八点入選）
特選　人物・丁野志げ乃（高須）
褒状　載帽式・原主幸（船戸）
褒状　女・朝比奈富美男・（高須）
入選　風景・竹内敬訓（高須）昔の落合・上村紀夫（連火）、花・永野愛子（杉）、風景・朝比奈富美男（高須）、やすらぎ・中西美香子（舟戸）
○書　道（十点入選）
特選　春望・西村浩一（東土居）
褒状　三木露風の詞・三谷和子（東寺内）、和歌二首・秋山和子（東土居）
入選　柿本人麻呂の歌・西村佳子（東土居）、萬葉歌五首・和田和子（高須）、井上康文の詩・石原延（中村大王）、伊達政宗・三村悦子（上東）、与謝野晶子の歌・小川みや（高須）七言二句・門脇宏子（中村大王）、七言二句・三谷美保（戸手野）
○写真の部（六点入選）
褒状　ボク等は国際パトロール隊・石原正恒（中村大王）
入選　荘厳の朝・松浦延和（寺内）、花・秋山勝重（寺内）、あさみ・秋山勝重（寺内）、仲良く（水芭蕉と座禅草）・石原延（中村大王）、ねむいよー・原幸子（中村大王）
推薦　廃屋・朝比奈富美男（高須）
○彫塑・工芸の部（十一点入選）
特選　流仙・西岡富美子
褒状　鉄釉壷・門田勝喜（東土居）
入選　刺繍風てまり・秋山花（川口南）、てまり・楠島冨士子（高須）、竹人形コムソウ八人衆・富山行盛（磯谷）内記・岡林延子（本村）、江戸八ツ・岡林延子、二重笹波・西岡富美子（本村）、御岳・岡林千代恵（戸手野）、千鳥・岡林千代恵（戸手野）、なお子観音・上地琥磨雄（柚木）
推薦　自在・三谷晴喜（大畑井）

絵画審査評
審査員　中城克巳
五カ町村の合同展としては、出品数が少しもの足りないようでしたが、高齢の方などの、なかなかの熱気が感じられ、楽しく拝見させて頂きました。
絵を見る時には、私はいつも作者が何を感じ、何を表現しようとしているのか、そしてその表現に作者の人間が出ているか（個性）を見ます。
「人物」の丁野さんの作品は、心をこめて対象に向い、形以上のものを追及している態度に好感をもちました。
美しい山や川など、それに日常生活の中から、素材を見つけ絵を画くよろこびを、多くの人たちが体験されるよう、のぞんでいます。

書道審査評
審査員　大野祥雲
幅広い学書をしている方が多いようで、出品作も多彩であった。しかもそれぞれの表現に伝統を踏まえた新しさもみられ、よい傾向だ。
漢字、仮名には堅実な書風が多く、現代書（小字数、詩文）では新鮮な感覚の持ち主も多い。
一方似通った作も見られたが、名人の持味を生かし、個性的な作品が多くなって欲しいと思う。
○特選「春望」西村浩一
甲筆が巧みで練磨が高い。線にはしぶさがあり、全体をまとめる力も素晴らしい。さらに動きを大きく、重量感もだしてほしい。
○褒状「和歌二相」秋山和子
小品であるが、かなとしての流れが美しく、線もしっかりしている。
○褒状「三木露風の詩」三谷和子
自然な運筆でよくおさめている。この詩文に筆者の心が宿っているようで、静かで明るい作。

写真審査評
審査員　岡崎達彦
今回初めて皆さんの作品を拝見させて頂く機会を得ました。当初予想した以上の力作揃いに驚きました。
特選と褒状との差はほとんどなく、選に苦慮しました。最終的には、ピントの切れと色調の冴えに重きを置きました。
全体的には自然ものが多く目に付きましたが、もう少し地域の生活に根差したものも欲しいな、と思いました。ふるさとを見つめるという視線は写真の世界でも同じです。

彫塑・工芸審査評
審査員　加藤　寛
今回の審査で特に気がついたのは、ご高齢の方々が積極的に出品されていることである。出品点数は例年に比べやや少ないが、日頃手間をかけて制作した努力が作品ひとつひとつから感じられた。工芸は巾の広い分野であり、違う素材が集う展示は身近な楽しみを与えてくれる。
○特選「流仙」西岡富美子
組紐は、時間と手間の根気が必要な仕事である。日本古来の伝統を洋風な用途に利用した洒落た作品に纏っている。


彫塑工芸の部（流仙）西岡富美子

絵画の部特選（人物）丁野志げ乃

書道の部特選（春望）西村浩一

審査場（写真の部を審査する岡崎高新写真部長）

高知県芸術祭協賛行事
第十六回大豊町民文化祭

農工センターで開催

歌に踊りに演奏
盛り沢山な展示発表
元NHKアナウンサー
川上裕之氏を招き記念講演

町民の連帯的、総合的な文化活動を推進し、その水準を高めると共に英知と情操豊かな人づくり、町づくりを目指して町文化推進協議会（会長・石原正恒）が取りくんだ第十六回町民文化祭が去る十一月二十六、二十七日農工センターで開催されました。文化祭は展示部門と舞台部門、歌謡ショー、記念講演、ヤング・ミュージック（前夜祭）の五部門で行われ多勢の人が文化の秋を楽しみました。

二十六日には文化ホールにおいてヤング・ミュージック・フェスティバルが行われ大勢のファンを魅了しました。翌二十七日、舞台部門の発表では、日本舞踊（菊友会、落合・岩原・豊永・大田口）、新舞踊（天坪支部・大杉支部）、音楽教室（大杉・穴内）、大正琴（立川クラブ・大豊クラブ）、詩吟（松村厚美・山内幸子）、民謡（大豊黒潮会・大豊民謡会）、郷土芸能寺内太刀踊り（大田口小学校）、音楽（大豊ミュージッククラブ）など盛り沢山な発表があり、日頃の練習の成果を披露し一幕一幕に拍手喝采。ひいきには花束やおひねりも贈られるなど会場は熱気につつまれました。

一方展示部門では生花（天坪）、絵画（絵画部）、書道（落合書道会・高須書道教室・若葉会・青柳会）、俳句（蜩会・やまびこ句会）、民芸（和紙人形・かがり手まり・伝承布小物）文化刺しゅう・押し絵・茶道（久保愛子）、はがき・テレホンカード（石原正恒）、手芸（高須婦人会）など沢山の出展があり住民の熱い眼差しが注がれていました。

また同日、文化ホール後方では大豊町内小中学校児童生徒による図画、版画、習字、硬筆等の展示や嶺北地区青少年健全育成パネル（嶺北地区の小中学生の作品、習字等）が展示され親子連れの目をひいていました。

また午後二時からは、高知県出身で日本コロンビア専属、秀鳳流吟詠会宗家、野中秀鳳さんの歌謡ショーや町商工会のお世話で元NHKアナウンサーで〝青年の主張〟や〝ニュースキャスター〟でお馴染みの川上裕之氏が『話し上手、聞き上手は人間関係上手』と題して記念講演があり約三百人が聴講しました。川上氏は三十年のアナウンサー体験を通じ『日本語の発音、アクセント、話法、敬語、漢字、外来語など日本語は何もかもが乱れている。昔からあった話し言葉がなくなっている。現在日本の各地で老人の話し言葉が若者にわからない、通じないという現象がおきており、お年寄り言葉が外国語のようになりつつある。お年寄りもゲートボールもさることながら異世代間の交流を深め昔からある話し言葉を是非お孫さんにも教えてほしい』と講演しました。今年の文化祭は例年になく人出も多く関係者も喜んでおりました。来年もそれぞれの部門で頑張って研さんされよりよい文化祭となることをお祈りします。

講演する川上裕之氏

展示部門（手芸）

見事な生花展

大勢の観客で賑った文化祭（舞台の部）

第八回大豊町社会福祉大会

農工センター文化ホールに五〇〇人集う

記念講演やアトラクションで楽しい一日

社会福祉をとりまく諸情勢は大きな転換を迎え、特に大豊町における高齢化の進行は著しく、住民の福祉意識への関心とニーズの多様化が広がっております。

大豊町社会福祉協議会では「共に生きる社会」をみんなで築いてゆくために広く地域住民との交流を図り、健康と生きがいある社会参加を目指し「心ふれあう福祉のまちづくり」を趣旨にして第八回大豊町社会福祉大会を去る八月二十八日、農工センター文化ホールで開催しました。

大会には町内各地から約五百人の住民が早朝から詰めかけ盛大な福祉大会となりました。大会では町社会福祉協議会副会長三谷和子氏の大会宣言に続き、同会長の宮内正男氏より高齢化社会での社会福祉の現状を含めた開会あいさつがありました。続いて優良高齢者五名に渡辺町長から表彰状と記念品が贈られた後、宮内会長より高額寄付者四名と優良ボランティアグループ団体に感謝状が贈られ、被表彰者を代表して前社会福祉協議会長の小笠原茂氏より謝辞がありました。

福祉大会宣言をする三谷和子副会長

記念講演する小椋氏

開会行事の後はRKC高知放送のアナウンサー、報道部長、ニュースキャスターなどを歴任し有名な小椋克己先生を招き記念講演が行われました。

演題は『国民休暇県、むらおこし番組取材の中で教えられたこと』と題して、小椋先生が六十三年四月から放送を開始した『誰のもの国民休暇県』など県下の市町村に出向き取材したむらおこしの事情を、持ち前のとおる素晴しい声と笑顔で聴衆に語りかけ、参加者も為になる話を聞いたと喜んでおりました。

午後からバザーの後、一時からは老人クラブ連合会長の小松俊雄氏のあいさつに続きアトラクション（演芸大会）に移り、可愛いらしい大杉保育所の園児の合唱や四、五歳児による合奏にはじまり、ボランティア等による踊りや歌、詩吟や大正琴などが披露され、盛り沢山なプログラムに参加者も大喜びでした。

予定通り午後三時三十分には全日程を終了し意義深い一日でした。

尚表彰者、感謝状贈呈者は次のとおり。

（優良高齢者）大豊町長表彰
川井　門田豊秋
立川中央　小松顕重
大砂子　長瀬厳亀
八畝　小笠原茂
安野々　都築一徳
（高額寄付者感謝状）
町社会福祉協議会長賞
久寿軒　西岡育
目付　森下利明
大砂子　藤岡義照
八畝　小笠原茂
（優良ボランティアグループ）
怒田　笑美の会
船戸　ラブ二七十
以上

福祉標語
おじいさんゲートボールで楽しそう。
（川口小五年生鎌倉さゆり）
お年よりいたわりあって町づくり。
（川口小六年生松村智子）
老人クラブに入りましょう地域の担い手として示そう！老人の心と力
（町社会福祉協議会）

ニューレジャー
落花生畑キープとふるさと体験
高知市内等から百人
葛原割木地区総出で歓迎

『落花生畑をキープしませんか』というキャッチフレーズで、葛原割木地区住民が村おこしの一環として昨年から取りくんでいる落花生掘りが、去る十月九日（日）に高知市等から約百人の家族連れやグループ客を受け入れ地区をあげて歓迎し好評でした。

この企画は、町産業課や高知市に事務所をもつ「暮らしの情報社」の協力により実施されたもので、ニューレジャーとして暮らしの情報社の広報紙で募集が行われました。昨年は落花生の実も小粒でしたが、今年は本場北海道から大粒の実を取り寄せて栽培し成育も順調でした。

この日は晴天に恵まれ、昨年から造成している吉野川沿いの割木ふれあい公園内には駐車場やゲートボール場、緑の広場、休息所、遊歩道も完成しており、色とりどりのコスモスが咲き乱れるなか家族や仲間がそろって落花生や芋掘りを楽しみました。

落花生掘りや芋掘りが一段落すると、緑の広場に思いおもいに陣取って昼食に移り、地元の婦人会が作ったあたたかい手造り弁当をかこみ楽しいひと時をすごしました。また地元では農家の方が栗の実や柿、田芋、新鮮な野菜などを持ちより即売場もでき主婦達が喜んで買い求めるなどお年寄りとの対話の中、田舎の風情を満喫しお土産に大きなリュウキュウをもらい喜んで午後一時すぎに帰っていきました。

過疎と高齢化社会にあって、手を取りあってこうした観光農園づくりに取りくんでいる割木地区の皆さんのような活動が、休暇県高知づくりの時町全体に広がってほしいものです。

鈴なりになった落花生・〝スゴイ〟

そんなクワの持ち方ではあぶないよ

お知らせ
〝成人式について〟
農工センター文化ホール
（一月十五日）

社会人として新しくスタートする若者を祝福する昭和六十四年成人式を来る一月十五日、農工センター文化ホールで行ないます。

成人式の対象者は昭和四十三年四月一日から昭和四十四年四月一日までに生れた方で大豊町に住所を置く者、または大豊町出身者が対象となります。

住民基本台帳で調査した結果は下記のとおりとなっております。

もし名簿からもれている方や、大学生や、就職されている方で、大豊町で成人式に参加を希望される方はお早めに教育委員会内中央公民館までお知らせ下さい。

住民基本台帳による成人式対象者Ⅱ（男子）西山明弘（大王下）、秋山　徹（日浦）、西村基史（栗生）、岡崎春男（岩原）、三根孝明（刈屋）、豊永秀海（筏木）、小笠原透（落合）、下村賢彦（岩原）、小笠原和浩（東土居）、渡辺　充（杉）、高倉寿夫（大砂子）、西岡茂広（馬瀬）、田邊豊弘（杉）、山中久紀（大平）、徳弘幸史（高須）、佐竹　稔（上桃原）、西岡雄作（北川二区）、前田雄一（怒田）、坂本和明（東寺内）、北窪昌仁（川井）、宮中潤一（大久保）、森下　工（黒岩）、上地憲幸（落合）、柳村　淳（川口南）、吉川健二（大王下）、上村良弘（川井）、小松忠司（船戸）、都築伊豆水（東庵谷）、（女子）西村美加（八畝）、片岡充恵（川口南）、佐野真美（三津子野）、吉永　紫（久寿軒）西村恵美（久寿軒）、上村美保（下桃原）、秋山智恵美（馬瀬）、原　広美（穴内一1）、小笠原直美（大王上）、三谷多美江（西庵谷）、西村佳代（東土居）、永森　幸（陰）、森下歩美（目付）、釣井美登里（久寿軒）、藤丸美衣（大田口）、豊永久美子（三津子野）、都築八恵（立野）、上村育美（上桃原）、秋山弘子（高須）、藤森尚子（船戸）、三谷佐代（大畑井）、西谷静代（馬瀬）、溝渕苫子（東庵谷）、三谷かよ（柚木）、森下江理（岩原）、西谷由美（東土居）、山中百合（上東）、上地亜由美（柚木）、森田令子（東土居）

（昭和六十三年十二月二十五日現在）

ジョイフル・コンサート
農工センター文化ホール
三味線やモダンジャズに太喝采

去る十月二十九日（土曜日）大豊町農工センター文化ホールにおいて、グループ・ドゥーイング主催によるジョイフル・コンサートが行われました。

出演者は、三味線の今井田歌（とうた）さん、モダンジャズグループのTOKE（とけ）により、午後六時三十分から同九時過ぎまで大ぜいの観客で賑わいました。田歌さんの津軽ジョンガラ節や、越後ゴゼ唄など自作の歌には手拍子やアンコールの声もあり、おひねりも出て田歌さんは、大豊へきて本当によかったといっておりました。

又、ジャズの「トケ」グループは88れいほく高速博でも演奏しており、リードギターの横原秀明さん、ベースギターの西松公高さん、ドラムスの橋本朋夫さんが演奏され、曲はほとんど横原さんのオリジナルで、リズミカルなジャズに観客は聞きほれました。特に最後のドラムスの迫力あるサウンドは、大喝采を受け好評でした。

ジョイフルコンサート　TOKE

KUTV・テレビ高知
豊永放送局開局

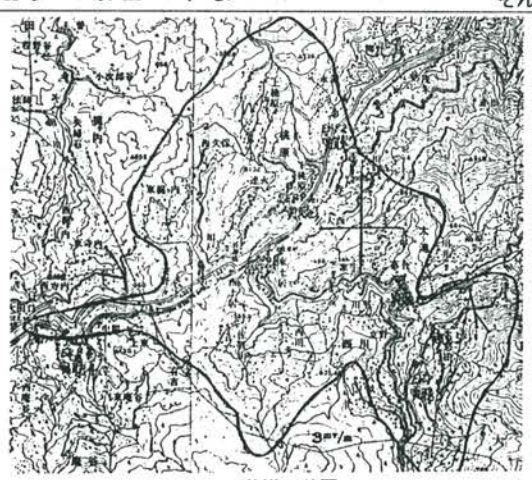
KUTV・テレビ高知が大平東山四九九―四番地に建設していた豊永放送局が昨年三月末に完成し放送を開始しております。

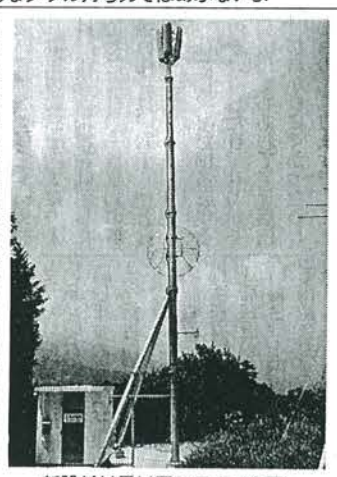
この豊永放送局開局により、現在まで難視聴区であった東西豊永地区の約八百世帯でテレビ高知の視聴が可能となりました。

テレビ高知を視聴するには屋外用UHF受信アンテナを設置する必要があります。受信アンテナ設置場所は、放送エリア内で豊永放送局が見透しできる場所が最適です。

放送エリア外で見透し外の場所では受信条件が悪くなりますが、ブスター接続やアンテナの多素子化等により受信できる場合があります。お近くの電気店に御相談下さい。

送信チャンネルは32
送信出力は　10W
開局日　60・3・24
エリア内世帯数八〇〇世帯
送信場所　大豊町大平大字東山口九九―四


放送エリア


新設KUTVアンテナ（大平）

高知営林局草野局長西峰へ

南小川直轄治山事業視察
西峰地区民ら熱烈歓迎会

高知営林局草野英治局長（四九）は去る十月六日、着任後（六十三年四月着任）初めて西峰地区における南小川民有林直轄治山事業の現地視察に訪れた。

この視察は従来局長交替時に行われており、今回は前今村局長が勇退にともない、その後任とし着任以来六月ぶりの現地入りとなった。

草野局長は局の山口宏治山課長（新任）等と共に沖野々川における直轄治山工事の進捗状況等について視察し、午後四時に南小川治山事業所（楠瀬康雄主任）に到着。事業所では楠瀬主任より、南小川直轄治山事業の状況等について説明を受け、辺地での厳しい環境下で地域にとけこんで活躍している事業所職員の苦労をねぎらった。後西峰地区直轄治山推進協議会（会長・永森宗雄）から西峰地区の直轄治山事業等の拡大並びに国有林の村おこし事業への解放等の陳情を受け歓迎にかけつけた渡辺町長らと親しく懇談した。

高知営林局では昭和三十年西峰に南小川治山事業所を開設以来、南小川流域や三谷部落の一部を含む面積約四・四五一㌶を局の直轄治山区域に指定して地すべり防止工事、復旧治山工事を施行し国土保全、防災面での重要な役割を担ってきた。また、西峰地区においては防災上の安全面はもとより年間五億円相当の工事が発注されており、住民の就労の場も確保される等恩恵に浴している。一方大豊町では三十三年に民有林直轄治山推進協議会を設立するなどし、用地交渉や地元の要望事項等についても南小川治山事業所とのパイプ役として長い付き合いであり治山事業の推進につとめてきた。また、事業所の職員も西峰地区にとけこみ一住民として地区のコミュニティー事業に積極的に参加するなど地元民から好感がもたれている。

あいさつする草野局長

午後五時からは地元有志らによる民有林直轄治山事業推進協議会の主催する局長歓迎会が新装なった西峰地区公民館で開催され、約二百人余りが出席し盛大なパーティーとなった。

歓迎会では永森宗雄会長の歓迎のあいさつに続き、渡辺町長から局長の紹介を兼ねた歓迎のあいさつがあった。

『草野局長は歴代の局長のように林野庁一途の役人ではなく農林省の官僚であり農林水産省の畜産局をはじめ、農政局、水産庁、北陸農政局、環境庁水資源水質保全局、農林水産省構造改善局など経て五十五年には外務省にも勤務しオーストラリア日本大使館の参事官として外交官の経験をも持つ方であります。

また、五十六年七月には水産庁の海洋漁業国際課長、六十年十月農林水産省統計情報局管理課長、六十二年の五月農林水産省大臣官房の経理課長を歴任して、六十三年四月に高知営林局長に就任するという経歴の持ち主であり歴代の局長では一番若いが大物局長である。

また、少しも偉らたがらず庶民的な面をもった局長でビール、ウイスキーよりは地酒を好み、理屈よりカラオケを楽しむという気さくな方で、私も一度カラオケで勝負を致しましたが完敗しました』と渡辺町長がユーモアを交えて局長を紹介すると局長も苦笑をしておりました。これを受けあいさつにたった草野局長もさるもの『今日の熱烈な歓迎に感謝します』一瞬選挙に立候補したような感がしました。辞令を受けた時、前局長らが西峰に行ったら大変な歓迎を受けるからお前も覚悟して行けといわれ、いつか、いつかと期待をしてまっておりました』と、町長の紹介に対し返礼をすれば会場にドッと笑いの渦がまきおこり和やかなムードが漂った。

草野局長は西峰地区は管内でも特別な協力を受けている。三十年間もの長期にわたり事業が続けられるのも地元の協力のお陰でありお礼を申し上げるとともに、引き続いて六十三年度は五億六千万円ぐらいの事業費を予定している。先程は推進協議会の方からも陳情がありました、私としては予算面の制約はあるが皆様の要望にそうよう努力するという、地元にとってはこのうえない心強いあいさつがあった。

続いて桑名町議会議長の乾杯の音頭により開宴。

和やかな宴も時間と共に盛り上り恒例となった婦人会による局長や町長の胴上げも行われ、局長を囲み夕方まで西峰の人々の活気に満ちた声が聞かれた。

熱烈歓迎会場

第一回 人権への道

すばらしい あなたに

町同和教育指導編より

高知県の明治維新の政治家、板垣退助は、次のような論告を出しました。「そもそも人間はもっとも霊妙なものであり、もともと下賤賤などないものである」もしあなたが背が高いから、あるいは低いからと言って差別をされたらどうでしょうか、あなたは「それはまちがっている。背が高い、低いは、なりたくてなったのではないし、第一、人の値打ちには関係のないことだ。」と言うでしょう。

私たちは一人として同じ人間はいません。私たちすべての人間はそれぞれに尊いのです。私も彼もかけがいのないすばらしい人間なのです。

同和問題の解決は焦びの急を要する国民的課題であります。県民一人一人が深い理解と共通の基盤のうえ立って、一日も早い差別解消を願ってやみません。

〝女のくせに〟毎日の生活の中で知らず知らずのうちに他人を差別していませんか、

私達は日常生活の中で、それほど気にもとめずに「女のくせに…」とか「女のくさったような男」とか言うことがあります。しらずしらずのうちに女性を差別していたり「しきたり」と言うなかで公然と女性差別を温存させてはいませんか、……

ここで女性差別にかかわる言葉をあげてみましょう。

○女性の登ってはいけない山、女性の乗ってはいけない船、女性が参ってはいけないお寺や神社、女性が入ってはいけない仕事場。

○「あんな貧乏人の娘とは一緒にさせん。」（貧富による差別）

○「あんな仕事の家の娘とは…」（職業別差別）

○「あの地区の娘とは…」（部落差別）

○「あの田舎もんの娘とは…」（地域差別）

○「あの娘の家に障害のある者がおるろうが…」（障害者差別）

○「外国人の娘とは…」（人種、民族差別）

○「あの家とは格式がちがう…」（門地による差別）

憲法第十四条「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において差別されない。」とあります。

高知県最低賃金が改正されました

日額3483円 1時間436円に

高知労働基準局長は、高知地方最低賃金審議会の答申に基づき、高知県最低賃金改正について異議の申し出の公示等法手続きを経て、昭和六十三年八月三十一日付官報に改正公示しました。

この結果、高知県最低賃金は昭和六十三年十月一日から

日額 3483円
1時間 436円

に改正され、別に定める産業別最低賃金が適用される者を除く、県下の事業場で働くすべての労働者（臨時・パートタイマー・アルバイトを含む）及び使用者に適用されることになります。

最低賃金制とは、国が賃金の最低限を定め使用者に対して、それより低い賃金を労働者に支払ってはならないとする制度です。

ただし、精神又は身体の障害により著しく労働能力の低い者、試の使用期間中の者等一定の条件を備える場合は、適用除外の許可をうけられることがありますので、最寄りの労働基準監督署へご相談ください。

高知労働基準局及び各労働基準監督署では、改正された最低賃金の周知を図るとともに、最低賃金法違反を行わないよう監督・指導を行っていくこととしています。

なお、高知地方最低賃金審議会においては、引き続き産業別最低賃金の改正についても調査審議を進めているところです。

最低賃金一覧

最低賃金名		最低賃金額 日額	最低賃金額 時間給	効力発生日	答申日
高知県最低賃金		3,483円	436円	63年10月1日	63年8月8日
産業別最低賃金	食料品・飲料・飼料製造業	3,833円	480円	62年12月30日	62年10月7日
	木材・木製品・家具・装備品製造業	3,939円	493円	62年12月30日	62年10月8日
	機械すき和紙・板紙・製紙パルプ製造業	3,897円	488円	62年12月30日	62年10月7日
	窯業・土石製品製造業	4,080円	510円	62年12月30日	62年11月4日
	機械・金属製品等製造業及び自動車整備業	4,057円	508円	62年12月30日	62年10月30日
	電気機械器具製造業	3,800円	475円		
	卸売・小売業、飲食店	3,831円	479円	62年12月30日	62年10月7日
	飲食店	3,535円	442円		
	道路貨物運送業	3,868円	484円	62年12月30日	62年11月3日
	大型貨物自動車運転業務	5,625円	704円		

交通事故のご相談は
お気軽にどうぞ
無料でご相談に応じております

午前9時半～午後4時40分（平日）
土曜日は正午まで（第2・第3土曜日は休みます）
○専門の相談員が親身になってご相談に応じます
○弁護士相談日：毎月第1金曜日午後1時～4時

社団法人 日本損害保険協会
高知自動車保険請求相談センター
高知市本町2－1－6　安田火災高知支店ビル2階
（電停大橋通東）高知調査事務所内
☎0888-25-0318（直通）0888－25－0315
電話のご相談もお受けします

一月十日110番の日

事件事故、見たら聞いたら110番
すばやくあなたの110番
上手に使おう110番

110番は、県民の生命、身体、財産を守る緊急電話として利用され、県下における年間の受理件数は、約二万五千件に及び、県民との強いきずなとなっています。

県民の約三十四人に一人は、年一回110番を利用したことになり、一日平均の取扱い件数は、六十八件となっています。

しかし、まだ110番をするのを遠慮したり、せっかく利用してもあわてて通話内容がわかりにくかったりしたものもあります。

そこで、一月十日を110番の日として、110番についてもっと関心をもって頂いて、これを身近なものとして積極的に利用して頂くことにしました。

○事件事故、見たら聞いたら110番

○すばやくあなたの110番

○上手に使おう110番

110番をかけるときは、まず落ちついて「いつ」、「どこで」、「どんな事件（事故）が起きたか」、「犯人は、だれか」、「どちらに逃げたか」、「どこから、110番しているか」などを警察官が質問しますのであわてずお答えください。

△公衆電話からかける場合▽

○青電話　緊急通報装置の110番をダイヤルする。緊急通報装置が設置されていない場合、十円硬貨を投入して110番をダイヤルする。

○赤電話　店の管理者に切り替え鍵で切り替えしてもらい110番する。

○ピンク　赤電話と同様、切り替え鍵で切り替えてもらって110番する。

○カード電話　緊急通報用ボタンを押して1・1・0とボタンを押す。

その他に県民の声110番（〇八八・三三・九二一〇）、覚せい剤相談（〇八八・三三・四〇九三）、いじめ相談（〇八八・三三・九六七）、暴力相談（〇八八・三三・〇二一〇）、暴走族相談（〇八八・三三・六二一一）、交通規制（〇八八・三三・六八〇〇）、悪徳商法110番（〇八八・三三・三四・五〇〇〇）、ヤングテレホンコーナー（〇八八・三三・〇八〇九）（本山警察署）

地域の特性を生かし 高付加価値農業を

中国四国農政局現地農政懇談会開催

農工センター

あいさつする小泉農政局長

農林水産省中国四国農政局が、地域農業の現状を把握し総合的な助言指導を行う現地農政懇談会が、去る九月六日農工センター文化ホールで開催されました。

この現地懇談会は五十七年度から実施しているもので、本県での開催は北川村や野市町についで六度目。

懇談会には農政局側から小泉恵二局長ほか部長クラス七名が出席。高知県側からは五十嵐農林水産部副部長ら農林水産部幹部職員。大豊町からは渡辺町長、桑名議会議長をはじめ農業委員会、農業協同組合、むらづくり総合推進協議会員ら関係者約七十人が出席しました。

懇談会では主催者側を代表し小泉局長が『大豊町は四国の中央にあって急傾斜地という厳しい環境の中にありながらも町、農協、農家の方々が一丸となって地域農業の発展に努力していると伺いうれしく頼もしく思った。大豊町においても後継者の問題、あるいは老齢化による労働力の問題とか作目の選定が非常にむつかしい問題であると伺っている。

農林水産省としては非常にむつかしい農業情勢の中にあるが、二十一世紀に向けての新しい時代の農業というものを作って行かなければならないと思っている。

現在米については水田農業特別対策あるいは米自給緊急化対策を実施しているが、こうした施策を通じ、より足腰の強い水田農業の確立をはかってまいりたい。

現地農政懇談会会場

又、牛肉、オレンジ等の日米交渉の結果は非常に厳しい情勢の中にあり牛肉は来年度以降、果樹については四年後に自由化されることになった。我々としてはそれまでの間に十分力をためてしっかりした基盤を作りそれに対抗して行かなくてはならない。先般その対策の骨子については発表された訳であるが、今後はそれに基づき着実に遂行していくという課題が残されている。

特にこれからの農業は消費者の意向、ニーズをふまえて物を作ってゆくことが大切である。

これから先は地域の特性を生かした農業を進める必要がある』などとあいさつした。

続いて高知県農林水産部五十嵐副部長並びに地元を代表して渡辺町長が地域の農業情勢をふまえて歓迎のあいさつをした後、出席者の紹介がありました。

又、懇談会に移る前に農政局側から「最近の農業情勢について」と題して全国、県単位の転作の実施状況など農業情勢の概況について報告。大豊町側からは近藤明産業課長が農家数の減少、高齢化問題、後継者問題、転作のおよぼす地域農政の厳しい現状と課題を報告。零細農家を抱える山間地農業に対する理解を求め、農政局側との意見交換を行いました。

意見交換は渡辺町長を先頭に九人の地元代表者が、農産物の輸入自由化問題等を踏まえた日本農業の将来や、補助事業制度の緩和、米減反政策、高齢化社会での山間地農業の振興策等国の姿勢について質問や要望が出されました。

農政局側はこれを受け各担当部長が解答または質問するという形で懇談会が進められました。

農政局側からはこれからの地域農政は高生産性農業を目指す一方、地域の特性を生かした高付加価値の手作り農業を推進しなければならない。

又、人が定着する農村の構造改善といった視点から住民の意識の刷新。進取り精神の必要性などの示唆もあり、熱のこもった意見交換となり四時間近い時間がアッという間に過ぎました。

尚、農政局の一行は前日九月五日には梶ケ森山荘において県、町などの関係者等との意見交換や西峰隙地区や佐賀山の現地調査も行い、急傾斜地で耕地面積も少ない厳しい立地条件の中での大豊町農業の実情に理解を示した。

懇談会発言者並びに発言趣旨は次のとおりです。

○大豊町長　渡辺盛男
日本農業の将来について

○むらづくり総合推進会議
松岡春美
生活環境の整備について

○園芸部長　松髙正明
高齢化の進む中での農業の振興について

○大豊町農業後継者今井安博
農産物の輸入について

○大豊町農協婦人部長大利愛
現地研修は農家宿泊研修としてはどうか

○町議会議長　桑名芳雄
公共事業等の進度率・補助事業の緩和について

○町農業委員会　上村正邦
山間地域における構造政策推進について

○大豊町農協組合長　秋山　勉
米の減反政策の今後の動向について

○大豊町農協指導経済部長
都築満喜
高速交通時代による輸送体系の変化と成功例について

第十七回町民体育祭

晴天に恵まれ盛大に開催

優勝西峰チーム（二回連続）（通算六回優勝）

二位　健闘の東豊永チーム

三位　大田口チーム

おめでとう西峰チーム

絶好の運動会日和に恵まれた第十七回町民体育祭は去る十一月三日（文化の日）大豊中学校グランドにおいて十二地区公民館の総参加のもと盛大に開催されました。

開会式には昨年度優勝の西峰チームを先頭に堂々の入場。入場行進では地区公民館長の号令で選手一同右手を高くかかげ町長に敬礼。十二チームがグランド中央に整列、開会行事のあとラジオ体操、競技に移り各地区は地区単位の運動会で十分練習をつんだ選手をそろえ、中々の接戦が展開されました。

なかでも昨年度優勝の西峰チームは持前の団結力を発揮し二年連続の優勝。通算六回の優勝ということで西峰地区は大喜こび。また今年は東豊永チームが健闘し二位にくいこみ、大田口チームが三位に入賞しました。

また一方では、各チームとも趣向凝らした応援合戦も賑やかにおこなわれ本部席前に繰り出してのアピールに採点する西岡県議さんや町長さんも苦笑い。町民そろってスポーツの秋を楽しみました。

尚各チームの成績は次のとおりです。

優勝、西峰チーム81点、準優勝東豊永チーム78点、三位大田口チーム68点、四位豊永チーム56点、同四位大杉チーム56点、六位大砂子・岩原チーム55点、七位穴内チーム49点、八位川口・立川チーム36点、九位天坪・久寿軒チーム33点。

運動会の呼びもの綱引大会

責任リレー優勝をきめたよろこびのゴール（西峰）

町PTA連合研修会盛会に終わる

大豊町PTA連合（会長・前田光盛）では、去る十一月十二日大豊町立西峰小学校において町PTA研究大会を開きました。

町内十四校の小中学校からPTA百二十名が集い、午前中は高知市の明神宏和先生の講演を聞き、午後からは、本年度の研究テーマである「こころ豊かな、たくましい子供を育てるPTA活動」を主題に三分科会にわかれ討議され、全体会で意見をまとめ大会を終わりました。

昭和六十三年度
町PTA会長表彰受彰者

天坪小学校PTA・江間義幸、久寿軒小学校PTA・西岡　啓、大杉小学校PTA・内田之正、豊永小学校PTA・上村貞夫、東豊永小学校PTA・近藤英雄、大杉中学校PTA・入野圭一

（社会教育班）

働きながら大学へ

＝高知短期大学入学案内＝

高知短期大学は、一九五三年に誕生した県立の二年制夜間、男女共学の大学で社会のすべての方々に広く受験機会を保障しています。

高知短期大学は、一般教育科目を土台に、法律学と経済学を中心にした社会科学の教育に重点をおいた大学です。

県下の勤労青年をはじめ多くの社会人が、社会進歩のための真理とより人間的に生きる確信をもとめて、高知短期大学の門をたたかれることを心から期待しております。

多くの仲間とともに学び語り合うことのよろこびはまた格別です。

本学の特色および入学の主な手続きは、つぎのとおりです。

㈠働きながら学ぼうとする人々に有利な入学試験制度
働く者に広く門戸を解放するために、入試科目は、国語Ⅰ・Ⅱ（従来の「現代国語」とほぼ同じ）と現代社会の二科目のみとなっています。

㈡定時制高校及び通信制高校の卒業予定者にたいしては、特別の推薦入学試験制度（小論文と面接）が設けられています。
（推薦入学試験を受けようとする者は、定時制高校及び通信制高校にご相談下さい）

㈢学生と教師の人間的な触れ合いを基礎に学問の探究を
本学の規模は、専任教師十四名、入学定員百二十名（総定員二百四十名）、したがって一回生は十名前後の学生と一人の教師でゼミを構成するなど、学生と教師の人間的な触れ合いを通しながら、学問を深く学ぶことのできる体制になっています。

㈣中学校教員資格の取得
短大本科（二年）卒業後、教職課程（一年）を修了すれば、中学校社会科教員免許を取得することができます。

㈤出願期間
入学願書の受付期間は、昭和六十四年二月一日（水）から二月十四日（火）まで。
（平日は十四時から十九時、土曜日は十七時から十九時の間に受付）

㈥入学試験
昭和六十四年三月十二日（日）十三時から十六時四十分まで。

㈦授業料
年額十万八千円（年四回分割納入制）
（改訂された場合はその額による）
なお受験を希望する者は、早目に「入学案内」をとりよせるように。くわしいことは、高知市永国寺町五番十五号、高知短期大学教務課【電話（0888）73－2156】へお問い合わせ下さい。

第八回大豊町産業祭

農産物展示・即売や ふるさとの味料理コンクール うどん食いだおれ大会などに歓声

来るべき二十一世紀を展望し町産業の振興を図ることを目的として第八回大豊町産業祭が去る十月十五日、大豊町農協大田口集出荷場をメーン会場として開催されました。

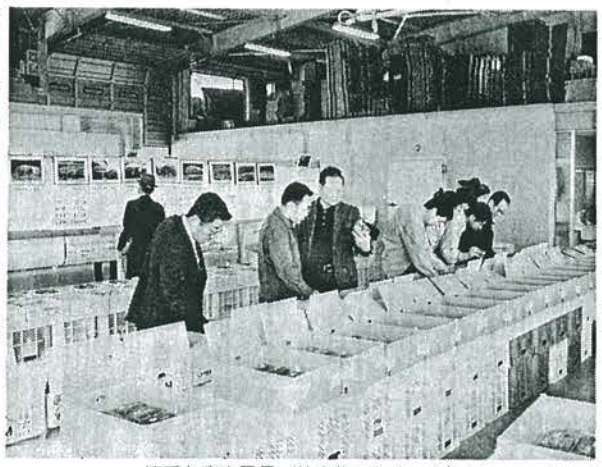
この産業祭は町内の産業関係団体（町、農協、森林組合、商工会、町観光開発協会）で組織する大豊町産業祭実行委員会（会長秋山勉）の主催により開催されました。

産業祭は園芸、畜産、林業、生活改善、商工、観光の七部会により行われ各部会とも趣向をこらしおらが町の産業祭を盛り上げ多くの町民でにぎわいました。

メーン会場の集出荷場では見事なトマト、ピーマン、シシトウ、柚子など町の奨励作目五品目など、百五十点が展示され園芸コンクールが行われ審査員の慎重な審査により知事賞以下九品目が入賞しました。

また同会場には県繭検定所において十月三日に審査され入賞した繭やしいたけの展示のほかに、特産物の即売場もあり多勢の主婦達が市価より安い値段ということでわれ先にと買い求ておりました。一方農協大田口支所の二階では生活改善グループによる『ふるさとの味料理コンクール』が開かれ農協婦人部の主婦らによる手作りの味（七九点出品）を競いました。

屋外ではすっかりおなじとになった庵谷和牛研究会の褐牛のバーベキューなどの出店や、手打うどんの食いだおれ大会、もち投げもおこなわれ会場周辺は終日歓声が飛び賑やかな一日でした。尚当日は米消費拡大推進運動の一環として標語の募集も行われ盛大な産業祭となりました。


慎重な審査風景（特産物コンクール）

ふるさと味料理コンクール

野菜果樹の部 ミニトマト

繭の部

○コンクール入賞者
○野菜・果樹の部（一一〇点中）
知事賞「ミニトマト」（土居）笹岡頼昭
高知園芸連会長賞「ゆず」（葛原）宮内　勇
高知園芸連会長賞「ししとう」（目付）森下　泉
市場賞「トマト」（磯谷）森下安治
市場賞「アキマメ」（西梶ケ内）桑名房美
町長賞「ジャンボピーマン」（穴内一区）佐々木昭夫
議長賞「ゆず」（尾生）森下英帆
会長賞「トマト」（柚木）前田品子
会長賞「ミニトマト」（仁尾ケ内）西岡安子
会長賞「ししとう」（久寿軒）西岡保茂
○繭の部（一五三点中）
知事賞（大砂子）中西陸男
町長賞（穴内一区）上村光男
会長賞（和田）原　義忠
高知経済連会長賞（大平）三谷一実
藤村製糸社長賞（谷）松村重子
四国蚕種社長賞（八畝）笹岡延正
議長賞（西梶ケ内）桑名賀博
努力賞（大砂子）中西晴清
努力賞（八畝）西村家光
林業の部
○しいたけ入賞者
会長賞　野々屋　永森正喜
町長賞　久生　野　渡辺万吉
森林組合長賞　大畑井　西村由安
〃　沖　前田種苗
○米消費拡大推進運動標語の部（一一三点中）
標語入賞者
小中学校の部（六十六点中）
優秀○お米はぼくら元気の源だ。
西峰中　前田真一
〃○食べよう、守ろう日本のお米　大杉中　岡林歩美
〃○おにぎりに今日も感じる母の愛　穴内小　渡辺直人
佳作○ピクニック三角おむすびつきものだ。
西峰中　三谷礼子
〃○にぎりめし母のぬくもり母の味　大杉中　山下美穂
〃○がんばる子、強い子、良い子、お米の子　久寿軒小　金丸美貴子
一般の部（四十七点中）
優秀○米飯で一家だんらん　健康家庭　刈屋　鈴木良哉
〃○変わらない母の笑顔と米の味　川口南　西岡藤子
佳作○三食を米でとおした祖母米寿　栗生　三谷富二子
〃○給食にご飯のすきな子、優良児　久寿軒　朝比奈武美
○ふるさとの味料理の部（九七点中）
知事賞「変りずし」（南大王）上村初子
優秀賞「かぼちゃまんじゅう」（東庵谷）西谷茂野
優良賞「みの虫小芋」（黒石）大利　愛
努力賞「小判揚げ」（西梶ケ内）桑名君代
努力賞「いりもち」（上東）三谷　操
努力賞「ぜんまいかぼちゃの南ばん漬」（本村）前田役恵
努力賞「キャベツ巻」（馬瀬）三田栄寿

'88れいほく高速博 二千五百万円の剰余金

本年三月二十五日から五月八日までの四十五日間、川口南プラチナ広場で開催された「'88れいほく高速博」の収支決算が発表されました。

これによりますと、収入三億四千百万円、支出は三億一千六百万円で、剰余金二千五百万円となっております。目標入場者二十万人を突破、収入の約三分の二を入場料収入で確保、支出面では会場設営費などの経費を最小限に切り詰めたことがこの結果に結びついています。

この剰余金については、十一月十八日開催された実行会議において、五カ町村で組織する嶺北開発促進協議会において「嶺北地域の開発」に活用することに決しております。

額は小さくとも、意義ある二千五百万円の今後の活用が期待されます。

（企画振興室）

健康食品と薬に 正しい認識を

最近の健康志向ブームで健康食品に対する関心が高まっていますが、このブームにつけ込んで健康食品をあたかも病気を治す薬のようにいって販売したり、バカ高い品物を大量に販売したりする悪徳商法が横行し、全国的に老人や主婦、若い女性を中心に被害に会うケースが後をたたず、大きな社会問題となっています。

このような悪徳商法の被害に会わないため、健康食品と薬に対し、正しい知識と正しい理解を持ちましょう。

健康食品とは

名前から、これを摂っていれば健康になるというイメージを持ち勝ちですが、この呼び方は業者がつけたもので、現在、これを定義づけた法律はありません。

あくまでも食品であって、薬のような効きめはありませんので、〝病気が治る、がんや糖尿病、高血圧に良い〟といった言葉にまどわされないようにしましょう。

薬とは

病気の治療、予防、診断、あるいは体の機能に影響を及ぼすことが目的とされているもので、その有効性、安全性、品質が保障されていなければなりません。

そのため、こうしたものは薬事法という法律によって、厚生大臣や知事から医療品として承認、許可を受けなければ製造することはできません。また、一定の基準に合い、知事の許可を受けた薬局・薬店や配置販売（置き薬）以外の方法で売ることはできません。

健康食品にはこうしたチェックがなく、また、薬のように効能、効果を表現した場合は、薬事法違反となります。

被害例

○アトピー性皮膚炎に良いと「〇〇オイル」を勧められ、三才の子供に塗布したところよけいひどくなり、化膿した。

○路上で呼び止められ、「これを飲めば宿便がとれ痩せる」と言われ、一四三、〇〇〇円で購入契約したが、十日間飲むとジンマ疹がでた。

○訪問販売に来たセールスマンから、「〇〇が不眠症にも効く」と言われ、五十万円で購入した。飲んでいるが全然効かない。

「医薬品まがいの健康食品」は、訪問販売・催眠商法・キャッチセールス・通信販売等でよく販売されています。

「〇〇に効く」と言ったりして、このような方法で販売されているものには十分注意しましょう。

御相談は　保健所、県薬務課（〇八八八―二三―一一一一）

やまびこ 句会 作品抄

葉牡丹の百の渦から　観世音　秋山　良恵
寒天の五百羅漢に　五百の顔　三谷　幸正
手の壷に雫余子寄り合う兄の忌よ　徳弘　妙子
干柿を軒につるして　過疎に老い　長野としえ
杣の酔い荒々しけり　とろろ汁　吉川　邦子
聖畜の飛んでも飛んでも杉穂　杉本　賀美
涼背負いマラソン人が　過ぎる秋　刈谷　武志
柿剥いで一ツ足したる　吾が齢　猪野　義晴
君といていつもしあわせポインセチア　松浦　美恵
運河汚れ昭和末期の　気球浮く　森　武司

編集後記

皆様、ご家族おそろいで良いお年をお迎えになられましたことを心からお慶び申しあげます。

△昨年は梅雨明け宣言も束の間戻り梅雨とかで気象庁を大慌てさしたうえ冷夏のなか水稲の作況が心配されましたが平年作並で農家の皆さんも一安心。

最近ではまたカラ、カラの天気が続き柿の葉が一葉、一葉と落ち今は淋しそうにたった一ツ残った真っ赤な守り柿が寒風の中にさらされています。秋がアッという間に過ぎ去り即冬将軍の到来で例年にない早雪に見舞われ寒い毎日が続いております。野菜の高値や水不足が心配されるなど天候不順に悩まされた一年でした。

△昨年の話題の一位は何といっても「'88れいほく高速博」の成功に尽きると思います。嶺北は一つの合言葉のもとに取り組んだイベントの持つ意義は大きく嶺北・大豊ここにありと県内外に宣伝ができました。また、山荘梶ケ森もオープン以来好評のうちに運営され観光大豊の拠点施設として益々の発展が期待されております。

△昨年から教育委員会が取り組んでおります生涯教育の推進につきましては大豊町の特性にあった生涯教育はどうあるべきかについて『生涯教検討委員会（会長中西盛興）より間も無く答申書が出されます。

教育委員会ではこの答申書を尊重しながら本年度は町民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学習できる体制づくりに取り組んでいきたいと思っております。町民の皆様の深い御理解と御協力をよろしくお願いします。

△天皇陛下の御病状が心配されながらの年明けとなりましたが一日も早い御快癒をお祈り致します。

△一九八九年が皆様にとって素晴らしい年になりますよう心からお祈りします。

（山崎）